競　技　注　意　事　項

本大会は、2025年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。また、本大会をWRkの対象大会とする。（ただし、男女5000mW・男女リレー種目は除外する）

1　練習について

（1）練習は、各練習会場の日程、諸注意を確認して実施すること。
（2）練習会場、競技役員の指示により安全に留意して行うこと。
（3）練習時間、練習場所については、天候の状況によって変更や制限をする場合がある。
（4）練習会場には、投てき物は用意していないので各自のものを使用すること。
（5）メイン競技場、補助競技場トラックでは逆走を禁止する。
（6）**棒高跳の練習は、競技開始80分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。**
　ただし、他の競技に支障が出ないように、当該審判員の指示に従って行うこと。

【練習会場】

（1）**メイン競技場**
① トラック競技及び走幅跳、三段跳ピットの使用ができる。ただし、競技の準備を優先する。
② 2日目のみバックストレートにおいて、300H（8・9レーン）・400H（6・7レーン）の練習をすることができる。
③ 練習時間は、開場から競技開始30分前までとする。

（2）**補助競技場**
① レーンの使用については以下の通りである。
ア　1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
イ　3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
ウ　ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路7～11レーンのみとする。
エ　多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、10・11レーンは男子110mHとする。
オ　第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。
② 個人の練習道具（メディシンボール、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止する。
③ 投てき競技で、回転投法ではない砲丸投の投てき練習はトラック外側の砲丸投ピットで行うことができる。また、投てき物を持たない基本練習を行うことができる。

（3）**多目的広場**
① 砲丸投（回転投法のみ）・円盤投・ハンマー投・やり投の突き刺し練習ができるが、その際、該当種目の練習時間を確認の上、練習場係の指示に従い安全に留意して実施すること。
② 個人の練習道具（メディシンボール、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習を決められたエリア内で実施することができる。その際、他の選手に危険を及ぼすことがないよう十分配慮すること。
③ 当該種目の招集完了時刻以降の投てき練習はできない。

7月12日（土）〈練習時間〉　円盤投・・・開場　～　9時40分まで
ハンマー投・・・9時50分　～　13時40分まで

（4）**雨天練習場**
① 雨天練習場内でのピストルの使用は禁止する。
② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲート側からの入退場は禁止する。
③ シート・マット等を敷いて独占的な使用をすることを禁止する。
④ ウォーキング・ジョギング等のウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよいが、それ以外の練習は、補助競技場等、他の練習会場で行うこと。
⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。

⑥ ハードル・ミニハードル・ラダー等、個人の練習道具を持ち込んでではいけない。

4 招集について

（1）招集場所は、メイン競技場**第2ゲート側バックスタンド内通路**に設ける。
ただし、棒高跳の招集は、当該競技場所で行う。

（2）招集開始時刻を点呼開始時刻、招集完了時刻を移動開始時刻とし、招集時刻は競技時刻を基準とする。**競技時間**を参照の上、招集開始時刻前に招集所に集合すること。

（3）招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとして処理する。

（4）招集の手順

① 競技者は、招集開始時刻までに招集場で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス・競技用靴・競技場で着用する衣類、持ち物等の確認を受ける。 トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識（2枚）を受け取る。

② ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできない。(TR6.3)

③ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

④ 代理人による召集の最終確認は認めない。ただし、複数種目を同時に兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻までに『多種目同時出場届』を本人または代理人が競技者係(招集所)に提出すること。

⑤ リレー競技に出場するチームは、競技者係(招集所)でオーダー用紙を受け取り、招集完了時刻60分前までにオーダーを記入し、競技者係に提出すること。決勝においてもオーダーの変更の有無にかかわらずオーダー用紙を提出しなければならない。また、オーダー用紙提出後の選手変更は、主催者が任命した医務員あるいは総務の判断がなければ認められない。

⑥ 出場種目を欠場する場合は、招集所で『欠場届』を受け取り、招集開始時刻までに競技者係(招集所)に提出すること。

※ 多種目同時出場届・欠場届・リレーオーダー用紙は招集所に用意している。

5 競技について

（1）競技順は、プログラム記載の番号順とする。

（2）競技に出場する競技者以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。

（3）トラック競技において、欠場者のレーンはそのまま空けておく。

（4）短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。

（5）トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。

「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」

（6）TR16．5（不適切行為）が認められた場合は、審判長の判断により「イエローカード」が出されることがある。同じ競技会の中で2度の規則違反があった場合は失格となる。

（7）男子5000mは、グループスタートで行う

（8）トラック競技の判定は、すべて写真判定装置（全自動電気計時1/1000）で行う。

（9）リレー競技に出場するチームは、同一のデザインのユニフォームを着用すること。

（10）4×100mリレーのマーカーは主催者が用意したものを出発係より受け取り、1カ所のみ使用することができる。使用したマーカーはそのチームで回収すること。

（11） 4×400mリレーに出場するチームの第2・第3走者は、通過順位確認のため胸に別ナンバーカードと腰ナンバー標識をパンツの左横やや後方につけること。別ナンバーカード・腰ナンバー標識は招集所で配布する。また、第3、第4走者のバトンの受け渡しは第3コーナー内側の黄色旗を通過した時点（コーナートップ）の順位で内側より並び、次走者はテークオーバーゾーンの内側より走り出さなくてはならない。その際、並んだ順序を変えてはならない。

（12）競技場内でのフィールド競技の練習は、競技役員の指示によって行う。公式練習は、2回とする。

（13）フィールド競技は、走高跳を除いて主催者が用意したマーカーを置くことができる。跳躍、やり投の競技者は、助走路の外側(走高跳では助走路内)に2カ所置くことができる。サークルで実施する投てき競技では、マーカーをサークルの直後あるいはサークルに接して1カ所置くことができる。使用するマーカーは、競技役員が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。走高跳のマーカーは、各

自が用意したもの（粘着テープ）とする。なお、使用したマーカーは競技終了後、各自で回収すること。
（14）棒高跳の支柱移動申請については、点呼時に口頭で当該競技役員に伝え、それ以降に位置を変更したい場合は、支柱がセットされる前に当該競技役員に申し出ること。
（15）三段跳の踏切板は、**男子＝１２ｍ、女子＝９ｍ**とする。
（16）男子５０００ｍＷ・女子５０００ｍＷについては下記の時間を越えて次の周回に入れない。
制限時間【男子５０００ｍＷ：２５分、女子５０００ｍＷ：３０分】
（17）競技者に対する競技場内での助力は禁止とするが、助言については、コーチングエリア内で行うことができる。TR6.4.5は、バックスタンドとサイドスタンドのコーチングエリアのみ適応し、競技者が録画機器を受け取って画像を確認することができる。ただし、メインスタンドでは禁止する。なお、文書をもって連絡することや競技者が当該競技場所を無断で離れることはできない。
（18）フィールド競技における競技中の競技者への水分・氷等を渡す場合は、当該競技役員あるいはマーシャルを通して渡すことができる。

※1　小学生招待リレーの不正スタートについては下記の通りとする。
「同じ競技者が2回不正スタートをしたときに、その競技者を失格とする。」
※2　また、小学生のスタートコールは、イングリッシュコマンドとする。
「On your marks」「Set」

６　競技用具について
（1）競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。やりの検査は競技開始６０分前に第１ゲート付近にて実施する。検査に合格したやりは、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、その競技終了後、メイン競技場第1ゲート付近で返却するなお、借り上げたやりが破損しても責任は負わない。また、個人所有のポールの検査は、最終点呼時に跳躍審判が行う。
（2）練習用としても、個人の用具を競技場所に持ち込んではならない。

７　競技用シューズについて
（1）　シューズとは、スパイク・ランニングシューズを含むものである。
（2）　スパイクのピンの長さは９㎜を超えてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は１２㎜を超えてはならない。これらのピンの直径は、先端が４㎜以内でなければならない。また、ピンの数は11本以内とする。
（3）シューズの靴底の厚さは２０㎜以下、ただし、競歩については４０㎜以内とする。

８　抗議と上訴について
（1）　競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、その種目の結果が正式発表（大型映像表示終了時刻を基準とする）されてから30分以内、同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内に抗議者は、抗議担当総務員（メイン競技場　第1会議室）に申し出て、当該審判長に対して口頭でなされなければならない。
（2）　抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、コーチまたは当該競技者により、預託金　10,000円を添えて「上訴申立書」を抗議担当総務員を通してジュリーに提出しなければならない。

９　アスリートビブスについて
（1）アスリートビブスは、指定された大きさ（縦１６センチ×横２４センチ以内）で数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけなければならない。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸部または背部のどちらか一方でもよい。
（2）トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識（2枚）を招集所で受け取り、パンツの左右横やや後方につけること。
（3）３０００ｍ以上の種目と４×４００ｍRの第２、第３走者は、別ナンバーカードを使用する。
※別ナンバーカードは招集所で配布する。

10　競技場の中に商品名のついた衣類・バック類を持ち込む場合について

（1）　日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用する。

（2）　競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

（3）　競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地に限る。どちらのテープにおいても商品名・ロゴが記載されたテープを使用する場合は、大会主催者の書面での承認が必要である。

11　競技の抽選並びに番組編成について

（1）　予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。

（2）　トラック競技の準決勝・決勝については、主催者側がルールに則りレーン順を決定する。その結果を大型映像により発表する。

（3）　トラック競技において次のラウンドへの出場者を決める際、その最下位で同タイムが出た場合は（以下同タイム者という）判定写真を細部（1／1000秒）まで拡大し、着差を判定する。それでも判定できない場合は、下記の方法で決定する。

①　100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mHの場合、同タイム者については、レーンに余裕がある限り次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同タイム者またはその代理人によって抽選する。

②　①以外の種目の場合
同タイム者については、すべて次のラウンドに進むことができる。

13　競技場への入退場について

（1）　トラック競技の競技者は、係役員の誘導によって入場する。

（2）　競技中の競技者の入退場は、当該競技役員およびマーシャルの指示に従って入退場する。

（3）　種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは第 2 ゲートを除き、メイン競技場外周を利用して移動すること。

＜第1ゲート＞第1コーナー付近からスタートするトラック競技・1500m・3000msc・300m・300mH

＜第 2 ゲート＞棒高跳・投てき種目

＜第 3 ゲート＞走高跳

＜第4ゲート（北エントランス）＞100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳
200m・3000m・5000m・競歩

14　走高跳・棒高跳のバーの上げ方

		練習									以　降
走高跳	男子	165	170	175	180	183	186	189	192	195	3㎝刻み
	女子	140	145	150	155	158	161	164	167	170	3㎝刻み
棒高跳	男子	330	341	361	381	391	401	411	421	431	10㎝刻み
	女子	190	201	211	221	231	241	251	261	271	10㎝刻み

※練習跳躍のバーの高さは審判と参加選手が現地で協議し、変更することがある。

第1位決定のために行うバーの上げ下げは、
＜走高跳＞　2㎝
＜棒高跳＞　5㎝　　単位とする

15　表彰について

各種目1～3位までに入賞した者またはチームに賞状を授与する。入賞者は競技終了後、すぐに中央エントランスホール入賞者控え所に移動、待機し、表彰係の指示を受けること。

16　**四国選手権調査書について**

各種目で8位までに、入賞した選手は、中央エントランスホールにて四国選手権調査書を必ず記入し、提出すること。　※出場の意志がない場合も必ず提出すること。

17 その他

（1）大会期間中、競技場で発生した障害や疾病は、メインスタン下の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。

（2）更衣は、メイン競技場1階更衣室および補助競技場の男子・女子更衣室を使用することができる。ただし、貴重品は各自で保管し、盗難防止に努　めること。

(3)記録は競技終了後、大型映像で表示する。準決勝・決勝のスタートリストについても大型映像で発表する。

(4)記録の速報を愛媛陸上競技協会ホームページで確認することができる。

(5) 記録証の交付を希望する競技者は、メイン競技場1階（第1会議室）の総務員に記録証交付願および交付金　500円を添えて申し込むこと。

(6) 迷惑行為および盗撮等は犯罪であるので、発見した場合は速やかに本部役員（第1会議室）まで連絡すること。

(7) 集団での連呼応援はメインスタンドでは禁止とし、バック・サイドスタンドでの応援は、フィールド競技の妨げにならないようにすること。

（8）プログラム配布及び参加料の納入はメイン競技場内、南エントランスの大会受付にて行います。

〇競技会で使用される主な略号について

日本語表記	略　号
欠　　場	DNS
途中棄権	DNF
記録なし	NM
失　　格	DQ
標準記録突破による通過者 または順位による通過者	Q
記録による通過者	q
愛媛県新県記録（愛媛県タイ記録）	PR（＝PR）
愛媛県高校新記録（愛媛県高校タイ記録）	PHR（＝PHR）
愛媛県中学新記録（愛媛県中学タイ記録）	PJR（＝PJ）
大会記録	NGR